

## 令和3年度第1回蘭越町総合教育会議 会議録

日 時 令和3年12月24日(金)  
午前10時00分～午前11時40分

場 所 蘭越町役場3階委員会室

出席者 構成員 町長 金 秀行  
教育委員会教育長 小林 俊也  
教育委員会教育長職務代理者 西澤 雅明  
教育委員会委員 及川 かをり  
教育委員会委員 西元 裕子  
教育委員会委員 高橋 浩之  
説明員 教育次長 田縁 幸哉  
学務課主幹 山本 和教  
生涯学習課主幹 高橋 ひろみ  
スポーツ課主幹 佐藤 耕治  
花一会図書館長 小林 勝司  
学校給食センター長 屋敷 広美

傍聴人 なし

午前10時00分開会

### 1 開会

田縁次長)

ただいまから、令和3年度第1回蘭越町総合教育会議を始めさせていただきます。

### 2 町長挨拶

田縁次長)

はじめに、金町長から御挨拶をお願いいたします。

#### 金町長)

昨日札幌に行きましたが、札幌は大雪になっていました。蘭越に連絡したら、蘭越も降っているということで、本格的な冬の到来を迎えました。そのような中で、師走の大変お忙しい中、令和3年度の第1回総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、委員の皆さんには、日ごろから蘭越の子どもたちの健全育成、更に教育行政にいろいろご尽力いただいておりますことに、感謝を申し上げます。ここ2年間はずっと挨拶で申し上げますが、コロナ、コロナでいろいろなところで影響が出ております。特に経済面では商店街の疲弊など、売り上げも減少をしています。併せて、感染対策という面では、行事が中止になり、子どもたちを取り巻く中では、毎日マスクをしなければならない、いろいろな苦勞をかけていると感じています。ワクチンの効果が出て、少しずつ、感染者が減ってきたと思いますが、御承知のとおりオミクロン株という変異が起こり、徐々に広がる気配を見せています。コロナ収束には、まだ時間がかかると考えています。子どもたちが元気で、皆さんの力を借りながら教育行政の充実を図ることが大切だと思います。この、総合教育会議ですが、年1回という形で開催しておりますが、今回が、7回目ということです。教育の課題について行政側と教育委員会が情報共有し、十分な意思疎通を図り、教育政策の方向性を一致させ、皆さんからのご意見により教育行政を進めていく大変重要な会議と考えております。時間が限られていますので早速会議を進めさせていただきます。子どもたちが安全に安心してコロナに罹らず教育を受けられる環境を整えることが私たちの役割であり、蘭越は良い町だと思えるよう、皆さんとともに進めてまいりた

いということを申し上げ、開会の御挨拶といたします。

### 3 教育長挨拶

田縁次長)

続きまして、小林教育長から御挨拶をお願いいたします。

小林教育長)

金町長には公務多忙の中、総合教育会議を開催していただきましてありがとうございます。教育委員の皆様には、教育委員会に引き続き出席いただきまして誠にありがとうございます。町長からも話がありましたように、平成 27 から本会議の開催が義務付けられており本日で7回目になります。例年ですと 1 月に開催しておりますが、教育行政も複雑化して多くの課題が出ております。早めに開催していただき、来年度に向けた取組ができればと考え進めさせていただきました。また、年 1 回だけでなく必要であれば 2 回、3 回と開催し、会議を通じて町長とともに考える、より充実した場としたいと考えています。本日は折角に機会ですので、皆様の忌憚のないご意見を教育行政に反映したいと考えておりますのでよろしくをお願いいたします。

### 4 協議・調整事項

田縁次長)

それでは、蘭越町総合教育会議運営要綱に基づいて、会議を進めさせていただきます。4 の協議・調整事項からになりますが、会議の進行を町長をお願いいたします。

#### (1) 教育委員会の当面する主な課題について

金町長)

それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。次第 4 の協議・調整事項の(1) 教育委員会の当面する課題について、事務局から説明をお願いします。

田縁次長)

教育委員会の当面する課題として

- 1 児童生徒の学力向上に係る取組みについて
  - 2 放課後こども教室と学童保育について
  - 3 奨学資金制度について
  - 4 蘭越高校について
- の 4 点について挙げさせていただきます。

#### 1 児童生徒の学力向上に係る取組みについて

令和 3 年度の全国学力・学習状況調査は 5 月 27 日、小学校 6 年生と中学校 3 年生で算数・数学と国語について行われています。

この結果ですが、本町小学校では国語、算数ともに全道の平均正答率を大きく下回りました。この結果は、調査が始まった平成 19 年度からは改善はされていますが、年度間で差はあるものの、小学校においては平成 27 年度をピークに下降傾向が見て取れます。中学校においては、ほぼ同じという結果になっていますが、小学校の状況から今後の低下が危惧されます。

これらの原因の一つが、児童生徒からの質問紙調査から推察されます。本町の少学生が全道を大きく下回った項目については

- ・平日ゲームやスマホは 1 日あたり 2 時間以内
- ・家で計画を立てて勉強している。
- ・平日学校の授業以外で 1 日 1 時間以上勉強している。
- ・学校が休みの日 1 日当たり 2 時間以上勉強している。

これらの結果から、家庭学習習慣の定着を図るための工夫や学習への関心・意欲の向上を図る取組みを家庭と連携しながら進める必要があると思われま

## 2 放課後子ども教室と学童保育について

放課後子ども教室は、文部科学省が所管で、本町では平成20年から開設しています。放課後の子どもの居場所づくりが目的で、対象は昆布小学校の児童です。希望する1年生から6年生までを対象に地域の人材や資源を活用したプログラムが行われています。平成29年度からは週3日を5日に拡充し、学校のある日の放課後17時まで行われています。コーディネーター1名と安全管理員3名が担当し、学習活動、自由活動、レクリエーション・文化・スポーツの体験、創作活動が行われています。年間の参加料は保険代800円です。帰りはスクールバスが運行されています。

学童保育は放課後児童健全育成事業が式名称となり、厚生労働省所管で児童福祉法により、保護者等が昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後、児童厚生施設等を利用し、適切な遊びの場及び生活の場を与え健全な育成を図るものです。本町では平成9年からはじまり、平成19年から現在の学童保育所を開設、平成26年度から昆布小学校にも枠を広げ、平成27年度からは4年以上の利用が可能になりましたが、日中保護者がいないことが条件です。開所時間は、平日は放課後から18時まで、土曜日、長期休業期間中は8時から18時までとなります。月額1,000円（4年以上は1,500円）の保育料がかかります。

昆布地区においては、子育て支援住宅が整備され、保護者が共働きの児童が入学するケースも想定されます。保護者の就労への影響、学童保育の要望は現在のところありませんが、教育担当と福祉担当が情報を共有しながら子育て環境の充実に努めることが重要になってくると思われま

## 3 奨学資金制度について

蘭越町の奨学資金制度は、昭和38年に創設され、経済的に修学が困難な方に、資金を貸与することにより、修学支援を行い、有為な人材の育成を図ることとして、令和3年度末までに187人に貸与されました。令和2年度からは、高校生を廃止して大学生等のみとし、併せて給付型の奨学金を創設しております。給付貸与ともに月額3万円で貸付は無利子、償還は6箇月据置の10年以内となっています。給付型については、当初所得要件を、日本学生支援機構と同様の町民税所得割非課税としておりましたが、今まで2件の申請があったものの、いずれも所得や成績で採用に至りませんでした。

現在、日本学生支援機構では、収入・所得により区分を3段階に分け、給付金額を設定しております。本町の給付型奨学金は、他の給付型奨学金との併用を認めていないので、国よりも収入所得要件を下げるなどの対応により、借りやすい形での運用が必要になっています。

## 4 蘭越高校について

平成30年度に道教委が作成したこれからの「高校づくりに関する指針」では、地域連携特例の取扱いとして、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的な取組とその効果を勘案した上で、再編を留保するが、2年連続して10人未満になった場合は再編整備を進めるとされ、蘭越高校にも適用されました。

それから4年目となる今年の秋、道教委から突然、留保の考え方が示され、留保から5年を目途に具体的な効果の検証を行うとし、令和4年と5年度に20名以上の入学者がなければ、令和5年度の配置計画において8年度で募集停止を発表すると説明を受けました。これに対して、北海道町村会民生文教常任委員会の地域連携特例校の所在町村首長と道教委の意見交換会において反対が相次ぎ、白紙撤回となっております。道教委においては、今後指針の見直しを行うとしており、再編留保の効果検証として、20名の入学者を求めてくることが想定されます。

地元の中学生在が減少する中、他の市町村からの入学者がなければ、大変厳しい状況に

あり、下宿先の整備などを行っていますが、遠隔授業配信の充実による学力向上と各種の経済的な支援により、大学進学等の夢が叶う高校として、さらなる魅力化を進めていかなければなりません。

以上、4点、教育委員会の抱える当面の課題の説明とさせていただきます。

#### 金 町長)

ただいま事務局から当面する課題4点について説明を受けました。様々な課題はあると思いますが、主だったところで4点ありましたが、順番は問いませんので、ご自由にご意見ご質問がありましたら、お願いします。

#### 西元委員)

学力向上です。育った環境もありますが、家庭学習が大事という家で勉強するという習慣を身に付けるよう努力されていると思いますが、最近の社会の状況として、共働きの人が増えており、家で子どもの勉強に付き合うことが難しくなっていると感じています。昔は、宿題はプリントで出され、親も教え易い、一緒にやってあげやすかったのですが、今の家庭学習は自分で何をやるか、課題も考えなさいという形になっています。それ自体は、良いと思いますが、なかなか子どもが一人でやるのが難しく、保護者も働いて帰ってきて、晩御飯の支度など家事がある中で、やれないと思います。負担が大きいですので、そういうところの支援が必要だと思います。学校の先生もこうやるんだよという指導はされていますが、うちの子を見ていると、2ページやらないとならない、いかにそこを埋めるかという感じでやっています。子どもによって差がでてくると思います。その辺を、人に見てもらえるか、家庭以外で必要と最近感じています。先日、配付していただいた資料に学習指導員がありました。コロナの関係で出てきたと思いますが、子どもたちの学びの保障、補助学習やドリル学習の補助を登録して必要な学校にボランティアで協力すると書いてありました。先生の働き方改革もあると思うが、負担にならないようにしなければなりません。でも、家でというのは大変なので、週1回でもよいので子どもたちの学習指導を考えてもらえないのか。そうするとかわってくるのかと思いました。

#### 金 町長)

率直な意見だと思います。先生方現場サイドで子どもたちの学習意欲を高めることをきちんとやってもらいたいと感じています。そういう環境を整えるのが町教委の役目だと思います。西元委員のおっしゃったとおり、家庭環境の中で、家庭学習が難しくなっている状況を現場でどのように感じ捉えているのかということが大事だと思います。いろんな支援があるなかで、今おっしゃった意見を届けるというか、内部で検討できなかつたということが必要と思いました。こういう問題があると今わかりました。いろんな支援がありますが、現場でこういう問題が出ている。これを内部で検討し解決するための話し合いが必要と感じました。

#### 小林教育長)

今回の学力学習調査について、委員の皆さんも承知されているとおり、小学校が非常によくない。学校サイドからすれば、学年によりバラツキがあるという雰囲気もあります。これは少しまずいと感じています。学校訪問した際の意見書には学力を上げてほしいと記載しておりますが、学校もこれを受け留め、音読などの対策も始めていますが、なかなかすぐにクリアできません。何年後かには中学生として調査を受けることとなりますので、環境整備をしていかなければなりません。町長が申し上げたとおり現場でどれだけ意識を持ち、何が足りないのか、もう少し示してもらい、どのような環境整備ができるのか考えていきたいと思っています。タブレット

トもどれだけ活用できるか、これから本格的に活用を進めていきますが、学校の方でどれだけ受け止め活用していくのか、見極めていかなければなりません。親からのアンケートなどを取るとこのような(家庭以外で子どもの学習を見てくれる人が必要という)実態になっているのかもしれませんが、いずれにしても家庭での学習が足りないということは明確なことで考えています。その辺については学校としっかり話していかなければならないと考えています。

#### 及川委員)

学力向上と放課後子ども教室に跨る内容になります。今回のように調査結果が低かった場合、学校からは家庭学習の話が出てきますが、一緒に住んでいる祖父や祖母の中には勉強は学校でしろ、家では家の手伝いをしろという考え方を持っている人がいます。私はこの考え方の全てが間違っているとは思いません。家庭学習で底上げしてくれという前に学校は、授業改善に努め、指導に努めていることをまず言わなければならないと思います。家庭学習といわれている保護者の方も生活を持っています。生活習慣も違います。どの程度やれば学校が満足するのか、学校側からの個別指導、あなたのお子さんは、みんなと勉強していても、例えば漢字が書けない状態、一緒にどうにかしましょうという声かけが必要だと思います。点数あげろとか家庭学習の時間を伸ばせとかでは、届かないというのが現状だと思います。先ほど、2番に跨ると話しましたが、昆布の放課後子ども教室は保護者の方が満足しているという話は、手に取るようにわかります。家に帰っても親がいない、周りに遊ぶ子がいないということを解消するために子ども教室が平成20年から週3くらいで始まりました。それが、今週5で開催されて、友達と宿題を学び合ったり、ピアノで大きな声で歌うなど充実した活動はできているとは思いますが、なぜ、蘭越小学校で放課後子供教室がないのか。(また昆布では)学童保育に入りたいときは、保護者が送ってください。共働きで子どもの面倒を見ることができない。学童保育があるにも関わらず、預けることが難しい。仕事を抜け、子どもを学童に届けなければならないとなります。そのへん一旦精査し、昆布に放課後子供教室ができた経緯は私もわかりませんが、蘭越小学校に放課後子供教室がないのは、学童があることが理由だとは思いますが、趣旨が違うので、当初の目的や住民の利便性をもう一度考える機会が来たと思います。西元委員が言ったように、例えば、親がいない、放課後子供教室は1時間か2時間の活動ですが、昆布の活動を見ていると、普段の生活を見ている教員の方が見ているので、家に帰った状況も考えながら適切な教室運営がされていると思っています。現状は家庭学習が大事ということはわかるのですが、親の中には自前で塾に行かせたり、学習教材を購入する方もいます。そういう方にとって宿題は邪魔になります。宿題を出しても、丸もつけてくれない、見てもくれない、出せばよいただけなら邪魔という意見もあります。ただ、直接担任に言うといやな親だと思われたくないので、こちらに向かってくるのだと思います。たくさん家庭学習の時間をとればよいというのも疑問ですし、最終的には家庭学習を頑張ってくださいと丸投げ状態にして、学力が安定するのか疑問があります。テレビを見せるなどか、家庭学習を長くするという前に、こちらで受け皿をつくる必要があるのではないか、放課後子供教室と学童保育、家庭学習というか、放課後問題についての意見です。

#### 金 町長)

蘭越小学校で放課後子供教室はできないのか。学童保育は最初花一会図書館で行われ、低学年の家に帰っても一人の子らに、なにかできないかということで、始まったと思います。

#### 小林教育長)

子育て支援が始まりです。

## 金 町長)

当時、図書館ではありませんでしたので、子どもが自由にしていたというきっかけから、国の制度化に伴い、学童保育に移っていきました。昆布に学童を作ってほしいという声はあったのですが、人数的なもの、当初低学年ということだったので、今は6年生までですが、人数が少なく施設も用意できなかったもので、状況の中でできるのが放課後子供教室でした。蘭越で放課後子供教室と学童保育ができるのは良いことだと思いますが、その辺のところを、学校との協議を教育委員会でしていないので、今言うように、これからできるのであれば、一緒にやれるかもしれない。これに関して委員の皆さんから意見ありませんか。

## 西元委員)

貰った資料によると、学習アドバイザーを置くことができると、学童は住民福祉課なので、ただ遊ぶ居場所となりますが、子ども教室だと家庭学習などもやってもらい易いと感じました。

## 及川委員)

親も子供が2、3人目だとわかってきますが、初めての親だと学童保育と放課後子ども教室の区別がわかりません。学童も申し込みをして、行って初めて、子どもの面倒をみてもらえるところと認識しますので、放課後子ども教室が必要だと考えている保護者はいないと思います。昆布が充実してきて、こうしている、ああしているとなった場合、なんで蘭越にないのという人がでてくるのではと想定した時、内部でできるかどうか先手を打ち、相談しておいた方が良いのではないかと思います。

## 小林教育長)

放課後子ども教室なので長期休暇などに対応できるかということも出てきます。学童みたい子育て支援となると夏休みや冬休みもということになります。メリットデメリットあります。

## 及川委員)

使い分けという面で、長期の場合は学童に預けてという選択肢もあります。

## 小林教育長)

学童はフルでオープンしていかなければなりません。

## 及川委員)

人数的なもの、小学校3年生までとか、放課後子ども教室は、全校、だれでもという設定も可ですし、5、6年生という事例もあります。実際に何が必要とされていて、どういうことができるのかということだけでも考えておく必要はあると思います。

## 金 町長)

及川委員のおっしゃるとおり、保護者は何が違うのかわからないと思います。入学したら学童保育を申し込む、ほぼそういう形になっています。非常に良い意見が出ていると思います。子どもにとって今何が一番大切なのか、どう環境を学校と協議して整えていくのか、そして、保護者の誰かから、もしかしたら2つの事業について出て来るかもしれない。福祉課と教育委員会は離れているので、連携がとりづらく、十分話し合っているのかということ、同じ屋根の下ですが、できていないということも事実です。課題ということで人の意見を聞いて進めていかなければなりません。本当に（蘭越も）小学校を活用してできないのか。

### 小林教育長)

制度が分かれていますので、すみ分けが必要ですが、活用できるか悩ましいと思います。福祉課と情報共有しながら、今は満足しているかもしれませんが、今後及川委員の言われることが出て来ることも想定されます。

### 及川委員)

学校運営協議会が始まったばかりです。住民参加を求める学校運営がはじまったばかりですし、今のままの体制だと、蘭小の先生に過重労働をもとめる状況になってしまいますから、学校で住民を使って充実した放課後ができるかどうかという方向で、みんなで考える形で進めないと、蘭小にできないかと投げかけると、難しくなると思います。

### 小林教育長)

昨日、全国の教育長会議がオンラインで行われ、山口県では保育所も教育委員会で担当するということでした。幼稚園から保育所全部教育委員会管轄ということですから、一括して担当するという体制で進めていくということです。子どもたちの環境も変わってきていますので、それに合わせて組合せが必要になっています。学童や放課後子ども教室も、スポーツ少年団など出てきています。

### 金 町長)

非常に良い意見です。これから検討していかないと、子どもの学力という面からもみんなで現状からこう改善していこう、それで底上げができるかなど。引き続き学校や福祉と協議を進めていきたいと思います。これについては、これくらいにして、ほかに何かありませんか。

### 西澤委員)

子どもが小学校に上がって、担任による家庭訪問が行われます。昔は上がり込んで、いろいろな話をしました。ここ2年はコロナで行けないという、家庭訪問にこない、なぜ外でも話ができないのか。会うことで、その子がどんな生活環境で過ごしているかわかります。今、自分の孫は2年生ですが、毎日プリントをもらってきます。みているとそれは予習・復習になっています。私のところは、私もいますし、親もいて、強制的やらされているところもありますが、そういうことができない家庭もある。昔は、家庭でドリル、プリントを買って、子どもに与え、学校でみてもらうという形でした。それは大変良いのですが、それだけをやればよい風潮で、終わればすぐゲームという状況です。傾向があります。家庭訪問がなかったのですが、面談は2回くらいあったのですが、先生には実際に家庭を見てもらい、話をして、先生の知らない部分を知ってもらうことが大事だと思います。外で立ち話でも良いと思います。

### 金 町長)

今の御意見も大変大事なことだと思います。コロナで行事イベントが中止になっています。これに慣れて少しでもコロナが流行ると全部中止になってしまうことが怖いと感じています。違う方法でやれないのか、会議なんかでも工夫してできないのかと申し上げています。実際に、ワクチンの接種が行きあたり、証明などが活用されれば、可能だと思います。中止だけでよいのかと感じている。今年になって、校長先生と懇談をしています。高校から小学校の校長先生に集まってもらいお話を聞いています。実は昨日、予定していましたが、急遽ながれましたが、校長の悩みなどを聞きながら懇談の機会を教育長も入って設けていますので、そういう声がとどけられればと思います。高橋委員どうですか。

**高橋委員)**

蘭越高校の件についてお聞きします。生徒数の確保に町の温かい支援をいただき、子どもを通わせる立場としても、大変助かっています。子どもが減ってきて、地域で子どもを奪い合うようなことも考えられます。町の補助に関してはこの先、蘭越高校が生徒数を確保し、20名が30名、40名と増えた場合、このような厚い予算措置は可能なのでしょうか。

**金 町長)**

非常に難しいご質問ですが、現在のところ、蘭越高校を地域とともに考える会の中で、存続向け支援を行っていますが、高橋委員のおっしゃるとおり、地元で入っただけであればありがたい。その中で、支援は財源的な部分がありますが、増えたからと言って急に切りますということにもなりません。魅力は支援だけではありませんので、魅力ある高校だから来たいという高校づくりが大事だと思います。町としても、校長先生などと相談しながらできる限り支援を進めていきたい。

**高橋委員)**

この先支援は、取捨選択していかなければならないことも考えてられます。今町長がおっしゃったとおり、お金の支援は親としてありがたいが、高校としての本来の魅力をアピールし、各地に知らせるようにしていかなければ、入学しても面白くないとなりがねない。魅力を先生や考える会と魅力化についてやっていかないとゆくゆくは入学者が減ってしまいます。

**金 町長)**

大人と子どもの目線は違います。話を聞くと違いがあります。大人だけで考えるのではなく、小中学生の意見も必要ですが、将来どういうふうにしていきたいかという意見も募集活動に生かしていきたいと思います。厳しい状況はまちがいありませんが、この間、補正予算でタブレットを年次的でなく全生徒に当たるよう高校と調整し措置しました。一人1台は高校で個人負担になるということで、議会に出し、了解を得て、全員のタブレットを貸与することになりました。お金だけでなくいろんなことに取組みたいと考えています。

他に意見等ありませんか。時間もたっていますので、次に進んでよいでしょうか。それでは、次の議題もありますので、(1)についてはこの辺でよろしいでしょうか。

**委員一同)**

よろしいです。

**(2) 令和4年度教育費予算について**

**金 町長)**

次に、協議・調整事項(2)令和3年度教育費予算について、事務局から説明をお願いします。

**田縁次長)**

令和4年度の教育予算の編成にあたりましては、教育委員の皆様には、総務課長査定前の段階で、第10回教育委員会議において各担当から説明しております。一昨日と昨日、副町長と総務課長の査定を受けております。今後、町長査定ということになりますが、現段階での予算について、主なものを担当主幹から説明させていただきます。

**山本主幹)**

教育委員会総務費では、



昨年度設置しました学校運営協議会の活動充実をはかります。

幼児・児童・生徒、保護者の教育相談については、竹内相談員を引き続き雇用し、幼児段階から保護者も含め、福祉担当や保健師と連携を取りながらスムーズな就学体制を整えます。

英語力向上対策は、ALT 2名と外国語活動支援員 1名を活用して、幼稚園・保育所・小学校 1・2年生から英語に親しみ、3・4年生の英語活動、5・6年生の英語授業の充実を図るとともに、高校から小中学校、中学校から小学校への乗入れ授業を推進し、町全体の英語力向上を図ります。また、それぞれの学年における到達度を設定したCAN-DOリストを活用しながら、英語検定受講料を助成し、その効果を測定します。

1人1台のタブレットが児童生徒にいきわたりましたので、その活用を図るため、教職員ICT活用講習委託料を新規で要望しています。

スマートフォン等情報機器によるSNSの普及に伴い、児童生徒が犯罪にまきこまれたり、いじめの温床になるなど社会問題化していることから、児童生徒情報モラル教室の開催を新たに要望しています。

蘭越市街地通学路の防犯・不審者対策として、5台の防犯カメラの設置を要望しています。

蘭越高等学校教育振興対策については、制服や教科書代の購入助成などを引き続き行い、入学者確保のための支援を行います。

学校教育費では

蘭越小学校の医療的ケア児に対する看護師を引き続き設置します。

また、昆布小学校のサーバーが更新を迎えることから、効率的な運用のため、蘭越中学校のサーバーと統合するための委託料を要望します。

児童生徒が有害サイト等にアクセスできないよう、学習用タブレットにフィルタリングソフトを導入します。

現在、1年生の肢体不自由児については、再来年、3年次に普通教室が2階となり、また、音楽室などの特別教室も2階、3階にあることから、来年度いす式昇降機を階段に設置します。

中学校の部活動指導員については、教員の働き方改革を更に進めるため吹奏楽部への部活動指導員の設置を要望しています。

### 高橋主幹)

社会教育費では、蘭越町はたちの集いということで、成人の年齢が20歳から引き下げられることから、蘭越町としては、成年年齢は引き下がっても、成人式については、年齢を変えず、名称をはたちの集いということで、日付も変えず8月15日で名称だけ変更ということです。もう一点、新規事業として、蘭越町アート祭り開催事業ということで要望しております。蘭越町のアーティストや曲子光男さんの絵も活用し、古きよきものを伝える絵、新進のこれからを担っていく吉田さん、歌と踊りを融合し、特に子どもたちが笑顔になれるような企画ということで考えています。また、子どもたちだけでなく、テーマとして0歳から100歳まで楽しんでもらえるようにということで、閉校した学校の校歌などのコンサートなども併せて行い、和と洋、新旧、静と動を合わせたイベントの開催を考えています。町民センターでは、駐車場の街灯照明を水銀灯からLEDに交換する予定としています。

### 小林副館長)

花一会図書館費では、ブックセカンド事業ということで、2万円の予算です。新たな取組です。ブックスタート事業は0歳児に絵本を送り、赤ちゃんとお母さんの絆を深めてもらおうというものですが、この事業自体は平成4年1992年イギリスのバーミンガムで始まったもので、蘭越町では平成22年から行っています。ブックセカンド事業は、3歳以上の幼児に絵本を送る事業で、目的は幼少時から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動につなげようと、全国で100市町村程度が行っています。

ブックスタートは全国 1000 市町村ほどやっている状況です。この事業については、3 歳になったら誕生日に図書館に行こうというキャッチフレーズで、一緒に図書館に来てもらって用意してある絵本から 1 冊選んでもらい渡すというものです。ブックスタートのフォローアップ事業という意味合いもあり、読み聞かせ体験や絵本に係る相談も行っていきたいと考えています。同時に図書館とのふれあいを広げようという意図もあります。

#### 高橋主幹)

放課後子ども教室は、週 5 日開設を継続します。また、予算にはありませんが、プログラムに体験活動がありますが、コロナでここ 2 年でできていませんので、3 年度の後半では少しできてきましたが、令和 4 年度は体験活動を入れるよう進めていきます。前段、放課後子ども教室のお話がありましたが、月 1 回程度の英語活動を取り入れるということで、新規に進めたいと考えています。

#### 佐藤主幹)

保健体育費では、スポーツ教室では、町の応援大使をお願いしているアルペンスキーのオリンピック選手である木村公宣さんによるスポーツ教室開催を要望します。

体育施設費では、老朽化した野球場ラバーフェンスや内野の土の入替、スコアボード、暗渠排水の取替、ダッグアウトベンチなどの改修を要望しています。

現在、総合体育館と国道の間の芝生と樹木については、駐車場の不足解消のための駐車場の整備を要望しています。

#### 屋敷給食センター長)

経年劣化した機器の計画的な修繕整備を行い、安心安全な給食の提供に努めます。

施設も 22 年経過しておりますので、以前から冷房用ボイラー、蒸気ボイラーなどの更新を行っていただいておりますが、4 年度については、調理作業に影響します焼き物用のオーブン、揚げ物用のフライヤー、浄化槽の汚泥の汲み上げポンプなど調理が円滑にできるよう予算を要望しております。

#### 金 町長)

ただいま、事務局から令和 4 年度の教育予算について各担当から説明がありました。現在、副町長総務課長の査定が始まっていますが、町長の査定は年明けからと考えています。委員さん方からお聞きになりたいこと、ご意見をいただければと思います。

#### 西澤委員)

小学校中学校のタブレットの携帯についてです。いずれは、家に持ち帰りが進むと思います。学校で使っている時には有害サイトにアクセスすることはないと思いますが。(学校以外はどうなるのか)

#### 小林教育長)

家では悪質なサイト、アダルトなところへのアクセスも想定され、フィルターのお願いが、保護者や学校から出されています。ただ、かけすぎると、調べものに影響がでますので、制限のバランスが必要になります。ソフトは入れることになります。

#### 西澤委員)

タブレットはどの程度使っていくことになるのか。先ほど、教育委員研修の中でタブレットに触らせてもらいましたが、授業でどのように使っていくのかと思います。

した。また、何年かしたら今のタブレットも古くなり更新も考えることになると思いますが。

#### 小林教育長)

学校訪問で見てもらった通り、子どもたちは違和感なく使っています。タブレットの活用は先生たちが勉強していかなければなりません。最終的にはデジタル教科書などが導入されることになると思いますが、先生の研修も必要ですし、得意な先生とそうでない先生がいますので、ある程度、学校の方針として使い方を定めてもらい、うまく活用できるように進めていきたい。また、道新の「まなべ11」ベルというソフトを入れることにしておりますが、これまでの道新の記事を活用し、社会活動などに活かそうということも検討しています。

#### 高橋委員)

蘭小に肢体不自由な児童がいますが、年齢を重ね小学校を卒業し、蘭越中学校に入学するのか、他の学校に入学するのかわかりませんが、蘭越中学校に入学するとなれば、今回小学校で設置する昇降機などを中学校でも、設置する予算措置をするのでしょうか。

#### 小林教育長)

その子の成長により、どのような準備が必要になるか決まると思います。蘭越中学校に進学したということであれば、考えなければなりません。法律的にも医療的ケアが必要な児童については、保護者などの要望があれば受け入れるようになってきました。状態によりますが、整備しなければならないと思います。

#### 金 町長)

外に何かありませんか。予算の方はこのようない形で進めているということよろしいでしょうか。なければ、全体を通して何かありませんか。

#### 及川委員)

町政懇談会で話せばよかったのですが、放課後子ども教室と学童保育など、総合戦略におけるチェックとそれのアクションが不透明と感じています。どうなっているのか町民に伝わっていないと思う。要望に沿ってプランを立てる力はある町だとは思いますが、作って終わりではなく、何年後かのチェックとそれに対するアクションは見える形で町民の方に知らせることが大事だと思います。その辺を力入れてもらいたいと思います。

#### 金 町長)

地方創生の関係については、先般、有識者や団体から推薦をもらい、一般公募も行い、委員の選定を進めており、その中で見直しを行うこととしています。第6次の総合計画ですが。

#### 及川委員)

その前の、まちひとしごと総合戦略を立てていますが、その時の数値的な目標について、例えば日本酒を何本売るなどの目標について、町民の反応や売れ行きなど目に見えてこない。見たいと思うが、やっているのか。第6次の総合計画はチェック、見直しという形で実行されているのは理解していますが、ここを直しましたという、全部はいりませんが、ここをこう直しましたというものが町民に伝わるような形で実行してもらいたい。

#### 金 町長)

今伺ったご意見は担当に伝えておきます。総合計画は委員を募集しチェックすることとしています。毎年のやったやらないの実績は、報告されています。それを町民にわか

り易く見せられるか。

**小林教育長)**

予算の概要説明書と決算の成果説明書が総合計画にあてはめた様式になっており、それを見ると1年間の状況が分かるようになっていきます。なかなかそれが町民の目にふれることはないかもしれません。

**金 町長)**

ホームページなどで、出せないことはありませんが、見てもわかりづらいかもしれません。

**及川委員)**

例えば、子育て支援に力を入れていて、子育て支援住宅を建てました。しかし、町外から子育て世帯が何件転入したか分かりません。やっているらしいということは伝わるが、町民が見ることができる数字がありません。

**金 町長)**

主要な施策の成果説明書は分厚くて、総合計画に基づいた予算についてどれだけできたのか、数値で全て出ています。議員には配っており、それに基づく決算の認定をしてもらうため資料として作っています。それをホームページを含めてお知らせすることはできるのですが、わかり易く前年度の主な結果についてお知らせできればよいのですが。

**小林教育長)**

花一会図書館では予算書のみで決算書はおいていません。

**金 町長)**

広報広聴活動になりますので、どれだけ成果を出したかを知らせることは大事です。わかり易く説明できる工夫があればと思います。予算の概要書みたいな簡単なものが作れば一番良いのですが。

**小林教育長)**

議会からは言葉よりなるべく図や表などでと言われていきます。

**及川委員)**

子育て住宅は、人気があり定員になり、何人が入れなかったなどわかれば良いと思います。そうなんだというお知らせがないと思います。

**金 町長)**

中学校のグラウンド横に住宅を建てましたが、これはなにということだと思う。これまで、国や道の公営住宅を建ててきました。大谷団地も5棟建てる予定でしたが、入れ替えする中で、3棟で十分となった。子育て、定住を考えると国や道の単価で大きなものを建てても入る人がいるのか、それでしたらもう少し工夫しようとなった。あの住宅は蘭越の建設業者がそれぞれ考えた住宅です。2LDKで2戸で金額3500万円くらいでどういう建物ができますかと提案型にし、昨年1戸、今年1戸建ち、来年1戸できればと思います。業者が建てて、町が買うというものです。そういうような定住対策についてこれだけやったというPRが足りないと思う。

**西元委員)**

教育のところもそういうところがあったら、蘭越は教育の先進地で、育て易いとなれば、定住の候補になります。

**金町長)**

新しく入ってきてもらった人に、下の住民係で、いかに住民対策や子育て支援をわかり易いものを作って渡せないかなということで、苦勞しながら担当も取り組んでいます。確かにやったという成果をもう少し知らせた方がよいです。

**及川委員)**

栗山町は役場に入ったところに、子育て世代に対する冊子が置いてありました。よそから来たばかりの方を例にイラストで紹介しています。今の若い人は雑誌などは邪魔にするので、スマホで見るなどQRコードが付いていてスマホで見れると良いと思います。刷り物はいらないけど、情報は欲しいというものに対応した仕組みが大事だと思います。

**金町長)**

おっしゃっていることはわかります。いかにそれを進めていくか、ご意見をいただきましたので、検討していきたいと思います。職員だけで考えるよう指示してもなかなか進みません。民間の力を使い、提案型にしてもらい、こういうものができるか、そういうのはこれから必要と感じています。その例ですが、子どものワクチン接種は非常に複雑です。何歳でなんのワクチンを打つなど母子手帳にたくさん書かれています。これをシステム化しようとしています。民間の力をかり、各医療機関と行政にソフトを入れ、子どもが来た時、バーコードで読み取り、医療機関と行政が情報共有し、保護者はスマホでいつ打てばよいか、何を打ったか一目で分かるようにしようとしています。これは羊蹄山ろくの町村で、昨日、倶知安厚生病院と医師会の会長に話をさせてもらいました。民間の力です。保健師が一生懸命苦勞して病院に行って、カレンダーを見て、次誰だなどとやっていたますが、今回町ではコロナワクチンの接種をバーコードで管理しました。履歴が残ります。そのシステムを活用し進めようと考えています。ほかのところではやっているから、考えるといっても進んでいきません。及川委員の意見は、これから町長査定を進めていきますので、課題として上げていきたいと思います。教育委員と校長先生などとの懇談の機会はあるのか。

**小林教育長)**

学校訪問の後に、懇談を設定しています。

**金町長)**

コロナで他の町に視察に行けないと思いますが、落ち着いたら先進地を見てきてほしいと思います。

外に何かありませんか。なければ以上で閉じさせてもらってよいですか。

**委員一同)**

よろしいです。

**金町長)**

大変お忙しいところ、この会議に出席いただいて、みなさんから活発なご意見をいただきまして、大変有意義な会議でありました。中身が濃い会議になったと思います。大人が目線、子どもの目線をどう捉え、安心安全に暮らしていける環境を作っていくことが私たちの役目と考えています。今後とも委員の皆さんの御協力をお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

